



種名：アユ *Plecoglossus altivelis altivelis*

分類：在来種 回遊魚

○大きさ

- ・稚アユ(ヒウオ)：3～5cm 若アユ：6～15cm 成魚：15～30cm

○生息箇所（すみか）

- ・利根川の上流から下流や霞ヶ浦に広く生息しています。

○生態（どんな生活をしているか）

- ・稚アユは動物プランクトン(ケンミジンコ等)を食べますが、若鮎から成魚になると付着藻類(石に生えるも)を食べるようになります。
- ・アユの寿命(じゅみょう)は1年で秋に生まれた仔魚(しぎょ)は海まで流されて海で過ごします。海で育ったアユは春に川を遡上します。
- ・成魚は瀬にナワバリをつくります。他のアユが入ってくると追い掛け回したり、体当たりをして、自分のナワバリを必死に守ります。

○釣りや漁業

- ・ナワバリを守る習性を利用した友釣りが有名です。その他に毛ばりやかぎ針を使った釣りもあります。
- ・利根川の下流部でアユ漁は行われておりませんが、埼玉県や群馬県ではアユ漁が盛んにおこなわれています。

○地域利用

- ・利根川の下流部ではあまり利用されておきませんが、日本の食文化(しょくぶんか)と大変つながりが深い魚です。
- ・アユの塩焼きはポピュラーですが、アユは成長に合わせていろいろな食べ方があります。例えば、稚アユの天ぷら、若アユの煮びたしや背越し(セゴシ)、アユの甘露煮、子持ちアユの昆布巻き等々。